



安曇野市教育委員会だより ふるさと安曇野

基本理念 ◇ すべての人が生涯を通じて学び合い、文化のかおり高い安曇野を目指します。 ◇ からだを動かし、頭で考え、心に感ずる“未来を拓くたくましい安曇野の子ども”を育みます。

地域を学び、文化を育む市内文化施設の活用について—安曇野市図書館

教育長 橋渡 勝也

安曇野市には、市民の皆さんが生涯にわたって心豊かに暮らすことをお手伝いする文化施設がたくさんあります。その中で、5地域にある公共図書館を利用した最近の私の体験をお話したいと思います。

日本近代登山の父と称されるイギリス人宣教師W・ウェストン氏は、今から130年余り前、北アルプス常念岳に足跡を残しました。明治27年(1894年)8月6日、一行は常念岳の麓の岩原(安曇野市堀金烏川)の村長宅を訪ねます。江戸時代からの大庄屋山口家の当時の当主は、外国人が珍しかった時代に温かく迎えたのです。その村長の名前は、山口吉人(やまぐちよしと)と言いました。

私は、当時の山行の一部始終についてウェストン氏が著した原本を「何とか見ることはできないだろうか」と、思いました。そこで、図書館に行って調べてみると、5冊余の訳本とともに、原著の復刻版*が豊科図書館にあることがわかりました。それらを借りて比べながら読んでみると、原著の村長名Yoshihitoにあてた人名が、訳本では「義人」と「吉人」の2通りがあることに気付きました。訳者がそれぞれの漢字をなぜ使ったのかなど想像を巡らせ、さらに、訳本により微妙に異なる表現の味わいも面白く感じました。

安曇野市の公共図書館は、蔵書の数も質も充実している上、職員もさまざまなニーズに応じて気持ちよく利用していただけるよう日々努めています。私のような目的(調べごと)をもった来館でなくても、ぶらりと立ち寄って過ごしていただくことも大歓迎です。お近くの図書館をはじめ博物館や美術館など市内の文化施設は、館周辺の花や緑など心安らく環境も大事にしながら、皆さまのご来館をお待ちしています。

* Walter Weston(1896)London:Mountaineering and Exploration in the Japanese Alps
:P258:Yamaguchi Yoshihito—昭和50年「日本山岳会創立70周年記念出版(復刻)」

(主な議案)

- ・安曇野市公民館条例の一部改正について(承認)
- ・安曇野市公民館活動功労者表彰要綱の一部改正について(承認)
- ・安曇野市地区公民館報表彰要綱の一部改正について(承認)
- ・安曇野市子ども・子育て会議条例の一部を改正する条例について(承認)
- ・潜在的待機児童数の公表について(了承)

次回定例会の予定

- ・6月定例会 6月25日(木) 午後1時30分から 市役所本庁舎301会議室

交通安全

実例から考えよう 起こり得る交通事故を防ぐために(2)

<実際の目撃事例>

豊科新田のスクランブル交差点でのことです。ここで、スクランブル交差点について説明しておきましょう。スクランブル交差点は、すべての方向の自動車を一時停止させ、歩行者が縦横・斜めにどの方向にも自由に横断できる交差点のことです。歩行者と車両の通行を完全に分離することで、事故防止とスムーズな人の流れを実現するものです。さて、5月のある朝、車道の左端を走行して来た自転車に乗った人が、赤信号で自動車と一緒に止まっていました。信号機は赤のままで横断歩道が緑になりました。すると、自転車に乗った人は、歩行者とともに自転車に乗ったまま横断歩道を走って渡り、そのまま車道の左側を走行していったのです。

(学校教育課交通安全担当者からのコメント)

自転車も車両であるため、車道左側を走ってきて、自動車と並んで停止線で止まっていた場合、歩行者用信号機が緑になったからといって、それに従って進行した場合は、信号無視として指導の対象となる可能性があります。また、スクランブル交差点内は多くの人が行き交うため、歩行者の通行を妨げた場合も違反となります。

スクランブル交差点内を歩行者信号に従って渡る場合は、自転車から降りて自転車を押して渡ることがより安全な通行の仕方です。小中学生には自転車から降りて渡るように指導してください。

※この内容については、学校への注意喚起として情報提供します。

子育て支援

「子どもの権利」を知ってもらう取り組み

「安曇野市子どもの権利に関する条例」が令和8年3月に施行となりました。

ところで皆さんは「子どもの権利」とは何かご存じでしょうか。何かぼんやりとしていてわかりにくいですね。子どもの権利とは、すべての子どもが生まれながらにして一人の人間として尊重され、自分らしく生きるために保障されている基本的人権のこととされています。市教委では本年度、啓発リーフレットを作成・配布したり、啓発イベントを開催し、その内容周知に取り組んでいきます。

社会教育

いつでも身近に、本と図書館を

市内5つの公共図書館では、約49万点の資料を所蔵しており、市民1人あたりの年間貸出数は7.5冊(R6年度県内19市中第2位)で、多くの皆さんに利用されています。予約した本は最寄りの館で受け取ることができ、多様化する市民の皆さんの「読みたい」「知りたい」を応援しています。また、本を探し、比べ、情報を整理しながら調べる体験を通して、「考える力」や「調べる力」を育む場としても活用されています。

そのほか、館内所蔵の上映権付きDVDを活用した映画上映会も実施するなど、知と心がみたまされる図書館を目指しています。

注目のとりぐみ

学校教育

5月1日は学校基本調査の基準日

学校基本調査では、在籍する児童生徒の人数や学級数等、学校に関する基礎的なデータを作成します。今年度の調査では、市内の小学生4,462人、中学生2,286人、合計6,748人在籍という結果で、前年度から129人減少となりました。

昨年度、市制施行20周年を迎えましたが、20年前の平成18年度は、小学生5,775人、中学生2,932人、合計8,707人であり、この20年間で2千人近く減少したことになります。

地域や年度による差はありますが、市全体では合併当初の数年間を除いて児童生徒数の減少が続いており、今後もしばらくは減少傾向が続くと推測されています。

災害に対する備えとは... 普段の生活の中にこそ大事なことが!

5月12日の夜、安曇野市各地で落雷が発生し、我が家も停電しました。この日は、ちょうど一人での夕食の時間でした。牛の届くところに懐中電灯があったので、その明かりで食事をしようとしたのですが、器の中が見えないので食べられないことに気づきました。ろうそくは日頃から準備していましたが場所が分からず、仏間から太目のろうそくを借りて来ることにしました。でも、安定して立たせるのにひと苦労しました。線香の少々きついにおいは我慢!と思いつつ、3本のろうそくの灯りでようやく食事だ、と思った瞬間、パッと電灯がついたのです。いつも当たり前にある電気が突然なくなった時の戸惑いや心細さ...大地震だったらこんなものではないでしょうか。何をどこに、どのようにしておくことが「本当の備え」なのか、今日から本気で考え、普段の生活の中で実行しようと決意しました。(ka)

感想やご意見などをお寄せください。

連絡先: 安曇野市教育委員会 教育部 学校教育課 教育総務係
Mail: gakkoukyouiku@city.azumino.co.jp

4 目の悪い教育をみんなに



11 住み続けられるまちづくりを

